

こたえ しもばしら
霜柱

きそ基礎 ⑤

しもばしら
霜柱

冬のさむい朝、土の上に、細い氷の柱がたくさんならんでいることがあります。これを、霜柱といいます。

霜柱は、土の中の水がこおってできます。

まず、地面の近くの水がこおります。すると、土の中から、つぎつぎに水が上がってきて、その水もこおります。こうして、こおった水が下からおし上げられ、氷の柱がのびていくのです。

霜柱は、地面の近くが0度、土の中は0度よりあたたかいときに、よくできます。霜柱をふくと、ざくざくと音がします。

1 霜柱が見られるのは、いつですか。

ア 夏のあつい昼

イ 冬のさむい朝

ウ 春の雨の日

2 霜柱は、何がこおってできますか。

土の中の

水

3 霜柱ができるじゅんに、□に1・2・3を書きましょう。

3 その水もこおる。

1 地面の近くの水がこおる。

2 土の中から水が上がってくる。

4 霜柱がよくできるのは、どんなときですか。

ア 土の中も、地面も、とてもあたたかいとき。

イ 地面の近くが0度で、土の中はそれよりあたたかいとき。

ウ 雪がたくさんふったとき。

おうちの方へ

- 霜柱を見つけたら、ふんで音を楽しんだり、氷の柱の長さをはかったりしてみましょう。